

招請講演 2

「がんと免疫」

山岸 久一

人体の細胞数は60兆個存在していて、DNAの上に存在する遺伝子の3万個はすべて解明されました。この遺伝子の中でがん遺伝子とがん抑制遺伝子は約100～200個存在すると考えられている。

正常細胞では、がん遺伝子とがん抑制遺伝子はバランスが取れているが、細胞や遺伝子に傷がついて修復される過程あるいは発がん物質に刺激されて、がん抑制遺伝子が減少する事で1個の細胞ががん細胞に突然変異する。さらに、食塩、高脂肪、胆汁酸などのがん促進物質や環境によって、がん細胞が増加する。

この状態からがんと診断がつくまでには10～20年を要すると考えられている。このように、がんは遺伝子の病気と考えられる。

身体に存在する約3万個の遺伝子の中で毎日3000～5000個の遺伝子が傷ついて、修復を繰り返しているが、修復の過程でがん抑制遺伝子が減少して、がん細胞に突然変異する、すなわちがん抑制遺伝子の異常ががんを誘発すると考えられている。

しかしながら、我々の身体には免疫担当細胞「NK細胞、T細胞、樹状細胞など」が存在していて、がん細胞と戦う能力を持っていて、免疫力が強ければ形成されたがん細胞が破壊される機構が存在する。

このがん細胞に対する免疫の機序について概説し、がん治療（手術、化学療法、放射線療法）の第4の柱としての免疫治療の位置付けと今後の方向性について述べたい。

略 歴

山岸 久一 （やまぎし ひさかず）

生年月日 昭和18年11月1日 （69歳） 性別 男

現職 京都府特別参与
京都府地域医療支援センター長
京都府立医科大学名誉教授
京都府立医科大学前学長

最終学歴 京都府立医科大学

昭和 45 年 3 月 京都府立医科大学 卒業
 47 年 4 月 健康保険鞍馬口病院 医員
 51 年 4 月 京都府立医科大学付属病院 修練医
 52 年 6 月 米国テキサス大学外科 留学 (2 年間)
 54 年 10 月 京都府立医科大学 助手 (第二外科教室)
 59 年 9 月 京都府立与謝の海病院 診療部第二外科医長
 61 年 6 月 京都府立医科大学 講師 (第二外科学教室)
 平成 5 年 4 月 同上 助教授 (同上)
 10 年 11 月 同上 教授 (第一外科学教室)
 11 年 9 月 同上 教授 (消化器外科学教室)
 15 年 4 月 京都府立医科大学付属病院長
 ～17 年 3 月
 18 年 4 月 京都府立医科大学長
 ～23 年 3 月
 23 年 4 月 京都府特別参与
 ～現在 京都府地域医療支援センター長

専門領域

消化器外科、外科腫瘍学、腫瘍免疫

資格・免許

昭和 45 年 6 月 医師免許証 206179 (昭和 45 年 6 月 11 日 医籍登録)
 昭和 52 年 8 月 博士 (医学、京都府立医科大学)

学会会長

- 第 13 回日本バイオセラピー学会学術集会総会 会長 (平成 12 年 12 月、京都)
- 第 26 回日本癌局所療法研究会 会長 (平成 16 年 5 月、京都)
- 第 25 回癌免疫外科研究会 会長 (平成 16 年 5 月、京都)
- 第 42 回日本癌治療学会総会 会長 (平成 16 年 10 月、京都)
- 第 177 回近畿外科学会 会長 (平成 17 年 5 月、京都)
- 第 1 回癌治療への再生医療応用研究会 会長 (平成 17 年 10 月、名古屋)
- 第 10 回チェコ日本外科シンポジウム 会長 (平成 17 年 10 月、京都)
- 第 53 回国際外科学会日本部会 会長 (平成 19 年 6 月、京都)
- 第 17 回アジア・パシフィック国際外科学会 会長 (平成 19 年 6 月、京都)
- 第 40 回国際外科学会世界大会 会長 (平成 28 年 10 月予定、京都)